

柱頭(capital)

●修復前の状態：6世紀に建設された柱は、18世紀に柱頭部分が白い塗料で塗り潰されていた。白い塗料の表面は、ミサの香や蠟燭による黒煙、大気中の粒子によって黒ずんでいた。

《修復手順》

- ①保存状態をマッピングする。欠けた部分や雨水が通った跡などを記録する。
- ②塗膜剥離剤 (svernicatore) を太筆で塗りつけ、数分置いて汚れや白い塗料が溶けたらブラシや金タワシなどでマッサージし、水を含んだスポンジで拭き取る。細かい部分は修復用メスなどを使って除去する。白い塗料が完全に取れるまでこの作業を何度か繰り返し、最後にアルコールを含んだ脱脂綿で表面を綺麗に拭く。
- ③Silicato di etileを注射器と透明な管を使って柱頭にゆっくり染み込ませ、柱頭の素材を強化 (コンソリデーション) する。

●修復による発見：白い塗料層の下、柱頭の石素材の上に金箔が見つかり、このことから当初柱頭には金箔が貼られていたということが分かった。



柱身(column) 聖人の絵以外の部分

●修復前の状態：柱頭と同様、ミサの香や蠟燭による黒煙、大気中の粒子によって黒ずんでいた (特に上部に至るほど黒ずんでいる)。広範囲に渡る欠損部はセメントによって充填されていた。

《修復手順》

- ①保存状態をマッピングする。欠けた部分や雨水が通った跡などを記録する。
- ②界面活性剤、スポンジ、脱脂綿などを使って表面の汚れを軽く取る。
- ③炭酸アンモニウム、EDTA、界面活性剤などを配合して混ぜた溶剤を筆で塗布する。マッサージするように汚れを落とし、ホワイト・スピリットを含ませた脱脂綿などで拭く。溶剤が強いため洗浄しすぎると白くなってしまうので、洗浄しすぎないよう、また均一に洗浄することが求められる。
- ④過去の修復において充填されていたセメントを、ノミや金槌を使って除去する。
- ⑤穴などの欠損部を充填する。うさぎ膠、石灰、顔料を混ぜた充填剤を、スパトラ (へら) を使って欠損部に埋め込む。また、セメントが埋め込まれていた穴は大抵大きいので、まずコッチョペースト (cocciopesto) や砂を水で溶いたものである程度充填し、乾いてから前記した充填剤で柱の表面の高さに合わせて充填する。
- ⑥充填した部分を水彩絵の具で補彩する。
- ⑦Silicato di etileを注射器と透明な管を使って柱身にゆっくり染み込ませ、柱身の素材を強化 (コンソリデーション) する。
- ⑧合成樹脂ワニスで塗布し、柱の石の発色を良くする。
- ⑨マイクロクリスタリン・ワックスを塗布し、乾いたら布などで表面を研磨する。

●修復による発見：いくつかの柱の上に、十字軍によって描かれた "graffiti" と呼ばれる図や、教会を訪れた巡礼者によって描かれたメッセージが多数見つかる (塗りつぶされていたわけではないが、修復前は埃や蠟燭の煙などによって黒ずんでいたため、非常に見えにくくなっていた)。これらは歴史的価値があるとして、洗浄せずに残された。



柱の聖人の絵

●修復前の状態：ミサの香や蠟燭による黒煙、大気中の粒子によって黒ずみ、何が書かれているのかわからない状態であった。

《修復手順》

- ①保存状態をマッピングする。欠けた部分や雨水が通った跡などを記録する。
- ②洗浄テストで 洗浄に最適な溶剤を選ぶ。この溶剤をまぜ入れたエマルシオーネ・グラッサ (Emulsione grassa、油中水滴型エマルジョン) を使い、筆、脱脂綿、ホワイト・スピリットなどを使って洗浄する。
- ③穴などの欠損部を充填する。うさぎ膠、石灰、顔料を混ぜた充填剤を、スパトラ (へら) を使って欠損部に埋め込む。
- ④水彩絵の具で補彩をする。描き込みすぎず、聖人の全体像がわかることを心がける。
- ⑤合成樹脂ワニスを筆で塗布し、ワニス掛けをする。



基壇(basement)

●修復前の状態：過去の教会内での戦い、何百年間も巡礼者が側を通過していくこと、日常的な掃除で使われる水の侵食などの原因により、破損し欠損部が非常に多かった。

《修復手順》

- ①保存状態をマッピングする。欠けた部分や雨水が通った跡などを記録する。
- ②セルローズ・ファイバーに炭酸アンモニウムを含ませたものを基壇に貼り付け、しばらく放置し汚れを溶かす。その後これを除去し、ブラシと水で洗浄する。
- ③過去の修復において充填されていたセメントを、ノミや金槌を使って除去する。
- ④穴などの欠損部を充填する。もとの完全な基壇の状態に戻すのではなく、全体的に角のないような充填を行う。(ただし基壇ごとにどのような充填をするかは、毎回話し合われる) セメントが埋め込まれていた穴は大抵大きいので、まずcocciopestoや砂を水で溶いたものをスパトラ (へら) を使ってある程度まで充填する。この充填剤が乾いて後、仕上げとしてうさぎ膠、石灰、顔料を混ぜたものを充填する。
- ⑤充填した部分を水彩絵の具で補彩する。
- ⑥Silicato di etileを筆で塗布し、基壇の素材を強化 (コンソリデーション) する。
- ⑦表面保護のため、希釈したパラロイドを筆で塗布する。
- ⑧マイクロクリスタリン・ワックスを塗布し、乾いたら布などで表面を研磨する。



修復後の列柱



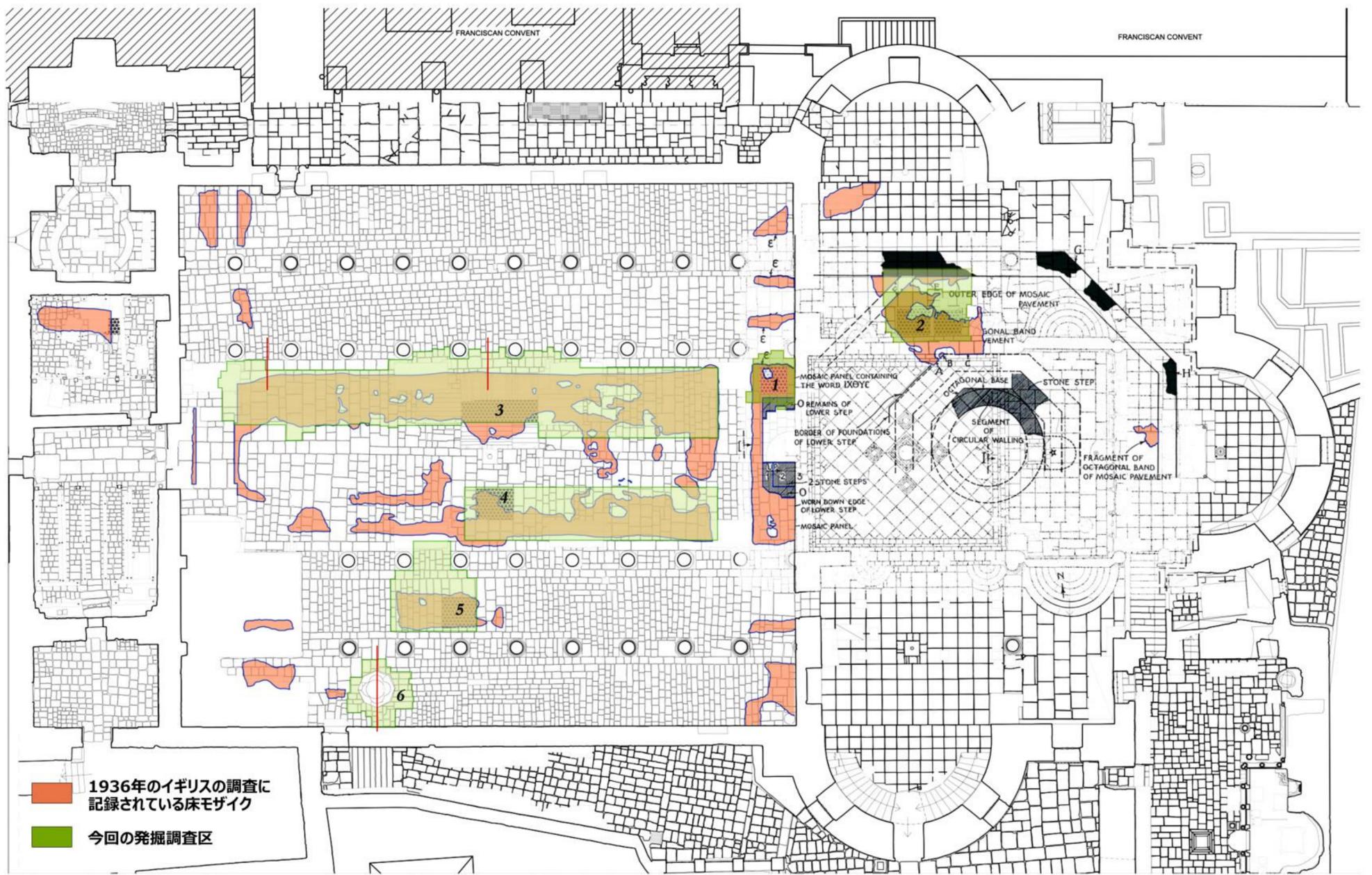
聖エリヤ



聖ステファノス



聖フスカ



聖誕教会 発掘調査

RESTORATION CENTER
Piacenti S.p.a.
 conservation of artistic and historical heritage





修復前の状態



破損したモザイクの縁の補強



補強後の状態



モザイクの洗浄



欠損箇所に石膏を補填し、モザイクの形に切り出す



モザイクの形に切り出した石膏の彩色



修復後の状態

聖誕教会 床モザイクの修復